

より質の高い、より深い、「新しい学び」を子どもたちに届ける

県立高校教育再編

なぜ再編の必要があるの?

少子化の進展により、2025(令和7)年3月の中学校卒業者数が1万1517人であるのに対し、15年後には7000人程度と約4割減ると見込まれています。01(平成13)年から21(令和3)年までの20年間で県立高校10校が閉校し、114クラスの学級減が実施されました。生徒数の減少は定員数の減少を上回っています。直近15年間は小規模校をできるだけ維持し、学級を減らすことで対応していましたが、学校の小規模化が進み、生徒たちが学びたい科目を選べなかつたり、授業外活動や部活動に制限がかかつたりするなど、教育の質の低下が懸念されています。

将来に向けて、限りある教育資源や予算を活用しつつ生徒たちが主体的に学べる環境を整える方法を検討することは必須であり、10年、15年先を見据え

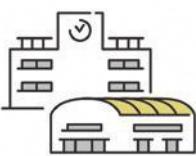
長崎県では現在、これから県立高校の方向性を示す大綱の策定に取り組んでいます。少子化の進展により、県立高校の在り方は大きく変わることが予想されます。どのように変わっていくのでしょうか。その動きを県教育委員会に聞きました。



未来の子どもたちに魅力ある学びを提供するため県立高校の規模の見直しや、カリキュラムの充実などについて考える必要があります。ただ、多くの離島・半島を有する本県では、離島半島地域の定員割れが顕著であるからといって安易に統廃合に舵(かじ)をきけば良いというものではありません。特色や魅力のある学びを提示し、他地域からの生徒の誘致を促すことも、再編計画で考慮すべき事案の一つかもしれません。県教育委員会では、これから高校教育がどうあるべきか、外部有識者などをメンバーとした「ながさき次世代高校創生会議」を立ち上げ検討を進めています。その議論を踏まえ、26(令和8)年6月をめどに、これから県立高校の方向性を示す「大綱」を策定することにしています。

今後議論が予想される内容(一部)

- 多様な学習ニーズに応える柔軟で質の高い学びの実現
- 学科の新設による魅力ある学びの創出
- 探究・文理横断・実践的な学びの推進
- 学科や学校を超えた学びの連携
- 教育コーディネーターを活用した教育、産業、地元自治体とのさらなる連携
- 遠隔教育センター(DECTT)の充実による教育DXの促進
- 学校数や学級規模のあり方



「ながさき次世代高校創生会議」に示された論点

- ① 全ての生徒が「自己の在り方・生き方」を主体的に考え、多様な学びと社会参画を実現できる魅力ある新しい県立高校の在り方
- ② 社会や地域の期待に応える特色ある再編整備の方向性
- ③ 特色ある教育を可能にする教育環境整備の在り方



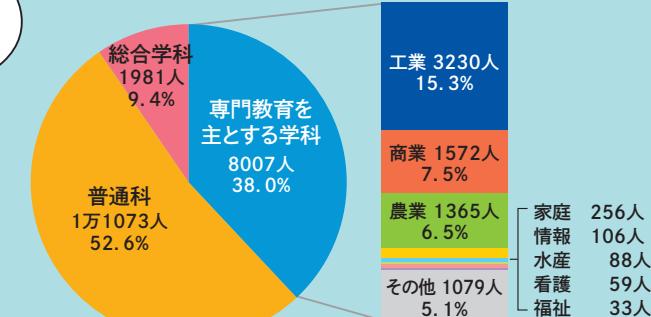
中学3年生の生徒数の推移と今後の見込み

～15年後の中学3年生の数を出生数で予測～



県立高校の学科別生徒在籍者数および割合

2024(令和6)年5月1日時点



教えてくれた人

県立高校教育課高校魅力化班
課長補佐 江川裕幸さん、指導主事 森陽さん

「県立高校の再編は、『どの学校を残すか、なくすか』といった議論ではなく、『子どもと未来』を軸に、生徒が主体的にキャリア形成を行える環境をどのようにつくりあげていくか」という視点で進めていきたいと考えています

